

講演会講演要旨・資料

別府史談会創立三十周年記念講演 「近世大分の風呂と温泉」

豊田寛三

(前別府大学学長)

平成二十八年五月八日、本会の創立三十年記念大会を「別府亀の井ホテル」にて挙行了しました。大会に当たり、元別府大学学長豊田寛三先生に「近世大分の風呂と温泉」という演題で記念講演をしていただきました。先生には本県近代史の第一人者としてのご観点から、貝原益軒の『豊後紀行』、古川古松軒の『西遊雜記』など豊富な史料を駆使され、別府・湯平・由布院・長湯など本県の主要な温泉地についての歴史や風俗をご講説いただきました。中でも幕末の日田西国筋代官所の役人が記した「手控」や中条唯七郎の『九州道中日記』の記録は、大会参加者をはじめて見聞きする史料で、十九世紀の別府や長湯の具体的な風俗が窺われ、皆さん大変興味深くお話に聞き入っていました。内容のまことに濃いご講演で、一時間の講演時間があつという間に過ぎてしまいました

た。三十周年記念に相応しいご講演いただきました豊田先生には、本誌を借りて厚くお礼を申し上げます。その折の史料(上述の「手控」)の一部を、豊田先生のお許しをいただき、左に掲載させていただきました。

「安政四巳年三月 手控 高松御預り所村々御内調一件 鎌手」(抄録)
(日田市大山町鎌手 矢幡 健氏所蔵)

※当時島原藩預りであった高松代官所支配地(大分・速見郡)を調査のため、日田の西国筋代(池田岩之丞)から相沢時之進が派遣された。その目的は幕府領の治安状況を調査・把握するためであろう。相沢に松木弥兵衛(玖珠郡)、鎌手三左衛門(日田郡)と書曲(玖珠郡)組頭彦兵衛が「付添」った。本文書は、三左衛門が残したメモ(横帳)である。

一、御預所高何程之事

此段、巷万式千石内

一、別府其外取締向旅人杯難渋有之歟

此段、旅人難渋と申義無御座、別府よりは帳外人之帳面御座候、病死等之節、口往来之積ヲ以御検使不相願候由、

一、盜賊困置盜物質物又は他国へ船を世話致し候事

此段、別府村盜賊之取締出来不致、旅人多人数入込候所柄故、事起り不申候而は、何様之義も分りかね候趣、事起り取調方庄屋手限り之取計可有之由、別部・浜脇両村ニは盜賊相隠れ居候由

一、銀札等新規仕立之義、又は御預所ニて扱候事

此段、別府葺屋市郎兵衛、久留嶋様御領内通用銀札遣出し申候、是ハ金子千両御取替、御返金無之由ニ付銀札を出し、其徳分を以御返金勘定ニ相成候由、亀川庄屋万之丞・野田村庄屋逸平両人より銀札同様之仕立ニて、巷万ニ付七十文通用之預り切手を出し候得共、当時不通用ニ相成申候、事實相分不申候

日田西国筋郡代役人の手控 (一部)